大正十二年十一月十三日

常務理事　添田敬一郎殿

中山亞鉛鍍金尼ヶ崎工業所爭議之件

所在地　尼ヶ崎市大洲村字神崎三五六

工場主　大阪市西區南堀江一丁目　中山悅治

作業請負者　東京市所住　中山登（中山悅治實弟）

工場支配人　檜村輝治

工場長　佐々木三郎

事業概觀

本工場は中山悅治の個人經營にかかり亞鉛引鐵板を主とする亞鉛鍍金業に從事し本年八月迄は企業全体を悅治氏の指揮の下に

財團法人協調會大阪支所

現在工場支配人檜村輝治氏工場長として操業し來つたが八月悅治氏は販賣購買に關する部分を除く製造にかゝる一切を擧げて東京在、中山登氏に請負はしめ登氏代理として佐々木三郎氏新に工場監督として來任した、是に於て事業の經營は極めて複雜となり兎もすれば命令二途より出ずる傾生じ職工は其去就に迷ふ所少くはなかつたのである。

爾來業績不振の爲佐々木氏は極力職工の能率增加に務めて居つたが會々關東震災の爲製品の需要激增し作業多忙を極むるに至つて職工は二交代十二時間作業を開始し新に職工を增加し佐々木は東京時代の所謂子分職工を十數名も引寄せたのである。現在本職工數百七十一名雜役夫を合して約二百名である。

爭議原因

中山登氏の代理として單獨西下した佐々木氏は工場内に於て檜村氏とも圓滑ならざる嫌が有つたが新に東京より職工を呼び寄せ

財團法人協調會大阪支所